

平成30年度 総合政策部 方針書

総合政策部長 村田 清和

1. 部の使命（役割）

政策推進のための全体調整役として使命を全うし、『幸せな地域社会』を実現する。
財源の確保と適正配分の実施により、『持続可能な地域社会』を実現する。

2. 平成30年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・市グランドデザインの提示を約束している。これを踏まえ、総合計画・FM計画・財政計画の見直しを含めた整合性を図り、これを持って新しい計画のスタート年とする。（但し、変更なしの場合は現状維持となる）
- ・総合計画、総合戦略の中間年である。意識が薄れないようにする。特に「何のために実施しているのか？」を常に意識するよう促す。（実施自体が目的とならないように）

3. 平成30年度の『スローガン』

◇戦略的思考を持って柔軟に取り組む「チーム」であるべし！
◇『もの』は三つの目で見るとべし！ 鷹の目(マクロ)、蟻の目(ミクロ)、魚の目(トレンド)

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・新しい横手市の方向付けへの取り組み
＜グランドデザイン、組織デザイン、財務デザイン(新地方公会計)＞
- ・横手市財産経営推進計画（FM計画）の推進
- ・行政経営マネジメントの推進（スクラップアンドビルドの実施）
- ・持続可能な財政運営の実施
- ・ICT利活用によるBPRの推進

5. 重点取組項目

(1)	項目	新しい横手市の方向付けへの取り組み
	取組内容	・大規模施設を中心とした市のグランドデザイン、グランドレイアウトを提示する。（これからの横手市の姿を示す） ・組織デザインの検討～決定。（次の市組織の姿を示す） ・新地方公会計の推進。（財務視点からの真の横手市の姿を示す）
(2)	項目	横手市財産経営推進計画(FM計画)の推進
	取組内容	・庁内部局横断による調整の実施。 ・個別計画、全体計画の整合性チェックの実施。 ・ローリング内容に関する市民及び議会との意見調整。
(3)	項目	行政経営マネジメントの推進(スクラップアンドビルドの実施)
	取組内容	・「行政評価の意味」の再認識→マネジメント層への浸透策の実施。 ・行政評価・事業評価実施から次のステップへ→担当課によるスクラップアンドビルドの実施を促す。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

- 組織再編案&(グランドデザイン改め)施設展望について議会へ提示し協議中。
- 新地方公会計対応については、着実に進めつつも国の方針待ちの部分もありスローペースとなっている。
- 行政経営マネジメントの推進については、今一つ押しが足りなかったと感じている。
- OBPRの一端として、RPAの実証実験を10～11月に行うこととした。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- 新しい横手市の方向付け／・組織再編:再編案の確定→条例改正部分は11月上旬決定、12月定例会上程→細部について1月末までに決定する。(課・系の名称・数など)
・施設関連:実施案件の確定に向け詳細を検討し理論構築する。提示スケジュールでは、駅東口再開発以外の案件の実施可否はH31年度としているが、早めに結論を出せるように詰めていく。
- FM計画の推進／・個別計画について作成を促す。計画の細部について一部調整見直しが必要かも。
- 行政経営マネジメントの推進／・行政評価の意味及び担当課によるスクラップアンドビルドについて、予算編成に絡めて周知及び実施を促す。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- 新しい横手市の方向付け／・組織展望については、財務シミュレーションも含めて議会に提示し、次年度に継続して検討することとしている。
・組織再編は実施するものの、当初計画した地域局組織の再編は実施しないこととなった。これは、想定以上に反発があったことにより、再検討することとしたもの。しかし今後は、全体の職員削減が行われていく中で地域局のみ現状を維持することは現実的ではなく、組織の崩壊を意味することを説明していく必要がある。トータルでは1部2室減となり、10部61課3室の組織構成となった。
- FM計画の推進／・個別計画について、検討は行われているもののそれぞれ作成までは至っていない。今後も作成を促す必要がある。施設廃止において議案が否決となった。説明不足との判断がなされた結果であり、しっかりとした手順で進めて行く必要がある。
- 行政経営マネジメントの推進／・評価システムとしてはうまく回り始めているといえる。しかし、評価をどう生かしていくかが課題である。この評価を使って事業スクラップにまで結びつけることが出来るようにしなければならない。特に判断権限のある管理職がスクラップ意識を持つことが重要である。
・RPAの実証実験を11月に行い、一定の効果があることを実証。(マスコミ発表も行った)